

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300128		
法人名	社会福祉法人 えぼっく		
事業所名	グループホーム ほこしあ		
所在地	北広島市輝美町2番地3		
自己評価作成日	R5年5月10日	評価結果市町村受理日	令和5年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢化も進み、昨年はホームでお亡くなりになった方が数名おり対応させていただきました。住み慣れた場所で大切な人と安心して穏やかに終末期を迎える事ができるように、又対応する職員の意識改革も含め、看取り体制の確立に力を入れたいと考えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlgw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300128-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年5月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である「社会福祉法人えぼっく」が運営する当事業所は2ユニットで、JR北広島駅から徒歩圏内に位置した静かな住環境の一角に有ります。「一人ひとりの声・願い」に耳を傾けてこたえていく工夫し実践していくことがそれが私たちの取り組みの原点です」を法人の理念しそれを基に、職員は日々の利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の疎外感をなくし利用者が自分らしく暮らせるように家庭的な環境のもとで、個々のニーズに沿ったケアを支援しています。医療機関との連携を図りながら看護職員による利用者の健康面に気を配り、食事に関しても栄養バランスの整った食事が提供され家族の安心、信頼に繋がっています。食事やレクリエーション等を通して孤立せず、利用者がその日その時に出来る事をやる事で自信に繋げ職員はそれを見守り、個々の人格を尊重し自尊心を傷付けないように利用者一人ひとり合った支援を心掛け、全職員がケア内容を把握し、全体で支援に取り組んでいます。コロナ禍でも地域や社会との関わりが途切れないように、SNSを活用した発信にも力を入れ、外国人技能実習生を受入れ職員不足の解消に繋げ人材育成を目指した試みも行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を共に事業所の基本方針を事業所内に掲示し共有している。また、実践できるよう努力している。	理念と基本方針は、職員が振り返りできるように見やすい場所に掲示しています。出来る事をして頂くように見守りを主としています。新規理念の作成に伴い職員の意識、理解を深める予定となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流はコロナを理由に出来ていない。	コロナ発生時から近隣地域の交流は出来ませんが、以前の交流の合った幼稚園から、手作りのカレンダーが贈呈されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記に同じ		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記に同じ	2ヶ月に1回奇数月で利用者代表者、家族代表、市担当者、包括担当者に書面会議での報告をしています。令和5年度は新たに民生員を加え対面の運営推進会議を開催して、家族参加の協力を頂きながら課題や意見を検討し、結果を周知する内容にし利用者の近況状況・事故・ヒヤリハットの改善などを記載し有益な運営推進会議の開催を検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ワクチン接種の担当者や介護保険の担当者等、必要に応じ連絡をし協力関係を築くようにしている。	市担当者とは、コロナ感染予防、ワクチン接種に関して、保健所を主とし情報の共有に努めアドバイス等を頂きながら分からない点について相談できる関係構築がなされています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の取り組みとして、委員会の開催や研修会、研修の振り返りを実施している。	身体拘束防止委員会は、年4回実施しています。スピーチロック防止強化を中心に、日常的に出易い行動抑制の言葉を取り上げ年2回の研修を行い、感想を提出してもらい職員の理解の把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修にも参加してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、虐待防止の観点から多少は学んでいるが特化しては行っていないので今後の課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時などに説明をし、理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との会話の中で、意見や要望を聞くように心がけている。また、玄関に意見箱を設置している。	令和4年度は事前に電話で予約し窓越しでの面会で実施しその時に意見や要望を聞いたり、細目に電話連絡を行い把握しています。通信は年2回発行しお便りにHPやSNSのQコードを載せ事業所の様子を発信しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や他の各会議で意見を聞く機会を設けている。	職員会議は2ユニット合同で会議を行っています。職員の積極的な意見や提案は協議し取り入れるように心掛け、より良い職場の環境作りに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等は定期的に評価し、給与にも反映されている。労働時間も無理のないよう調整している。また、向上心が持てるよう各種委員会にも参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職で事業所と個々の課題を明確にし、それに沿った研修会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの部会で書面開催だが、質問や意見を出し質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや願いを傾聴し、伝えられない方はご家族から聞き取りを行い、生活歴や利用を開始するまでの経緯を把握し、安心していただくことで信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族が不安に思っている事や要望を聞き、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族の希望を聞き支援の内容等を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を最大限に活かし共に行うことの喜びを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちを尊重しながら支援の方向性を相談し共に支え合っていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナを理由に出来ていなかった。元の生活に戻しつつ、本人にとって馴染みの人や場所を大切にしたい。	コロナ禍で外出は殆ど出来ていないため、訪問理容を利用しています。友人の来所や家族への電話や手紙などの支援を行い出来るだけ関係が途切れないように心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり支え合うことはなかなか難しいが、孤立せず関わりを持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る事は対応させてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や会話を通し希望や意向の把握に努めている。困難な場合でも家族と相談しながら、なるべく添えるよう検討している。	利用者がどのような生活を望んでいるかを入所前の生活歴や家族から伺い、日々の会話の中から把握するように努め、出来る事を少しでも経験し喜びになるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していた事業所がある場合は、情報を提供して頂き、また家族や本人から聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、カンファレンス等で個々の状態を確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者と担当職員でモニタリングを行い介護計画を作成している。職員全体のカンファレンスでも確認し共有している。	介護計画担当者と利用者担当職員でモニタリングプランを作成し、職員会議に提案・検討・協議し、本人・家族に提案了承を得て作成しています。見直しは6ヶ月を基本とし、利用者状況に合わせた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等の個別記録はできているが、気づきや工夫には課題がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添った受診対応を行っている。かかりつけ医との関係性も築けている。	殆どの利用者は定期的に往診を受診していますが、中には係りつけ医を受診される方もおり事業所に対応しています。適宜歯科往診もあり、利用者の健康管理は看護職員が行い利用者家族の安心に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問診療の看護師と連携を取り受診の必要性や対応を相談しながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を提供し連携している。病院関係者との関係作りについては、幅を広げる必要がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について入居時に説明し本人の状態に変化が見られた時にご家族と相談し、一番良い方向性を検討している。	利用者の重度化、終末期に関して事業所では本人・家族の意向に沿い可能な限り医師と連携を取りながら行ってきています。看取りの指針を作成し、定期的な研修を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講、AEDの使い方などを研修等で実施しているが定期的ではない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、シミュレーション型や色々な時間帯を想定し実施している。BCPを作成し大きな災害にも備えている。地域との協力体制は築けていない。	年2回、法人事務局合同訓練を自主訓練(通報・初期消火・避難誘導訓練)を実施しています。オール電化のため、ポータブルストーブ、ランタン等の備蓄で停電対策を行っています。事業所が市の避難場所指定の為発電機が用意されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議の際、接遇マナー研修を通し言葉遣いや声掛け等検討し良くなってきたが、その対応が継続しない。	法人で主催する接遇委員会の研修に職員が参加し、講師として伝達研修をする事で参加した職員も含め意識改革し、利用者対応マナーの向上を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけているが不十分だと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースより皆一斉にという対応が多い。やはり職員側の都合になってしまっている事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、着る服を選んでもらったり、できない方には一緒に気温等を考慮しながらコーディネートしている。1日を通して身だしなみには気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備や片づけはできていない。好みの対応は多少はできている。	献立、食材は宅配業者から届けられ多彩なメニュー、バランスの取れた食事が提供されています。利用者の希望により家族の了承を得ながら個々に購入し提供することもあります。誕生日には手作りケーキやお好み焼きなどを職員と一緒に調理しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個々の状態に考慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施出来ている。仕上げ磨きも実施できてる。また、訪問歯科とも連携して口腔内の健康維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて排泄の声掛けを実施している。また、本人の様子から排泄のタイミングをうかがっている。	昼夜問わず自らトイレに行く方や排泄パターンを把握し誘導する方、行動・表情で読み取り失敗のないように職員は配慮し羞恥心を感じさせないよう心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因でおこる体調不良や不穏状態を理解し対応している。マッサージやホットパック、水分摂取や散歩等の運動で予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は希望に合わせてはできていない。が、気持ちよく入浴できるよう職員間で協力し対応している。	基本は週2回の入浴で、ゆったりと浴槽浴を楽しめるように努めています。利用者の体調や状態、気分によっては日時等の変更し気持ちを汲み取り無理強いないようにシャワー浴や足浴などを含め支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状態に応じ休息する時間を作っている。室温や湿度調整にも気を配っている。リネンの交換も定期的または、随時行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は服薬マニュアルと共にファイリングし閲覧できるようになっているが職員全体が理解できていない。薬の量や種類の変更、服薬に際し観察が必要な時は 都度周知し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割では洗濯物たたみ、ゴミ集め、居室や廊下の掃除等職員と一緒にしている。嗜好品は一部の方だけで全員とは言えない。楽しみ事はコロナを理由に出来ていなかったため視点を変え見つけられるよう努力していく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナを理由に出来ていない。その日の希望は難しいがご家族とも相談しながら視野を広げ対応していきたい。	コロナ禍で外出は出来ませんが、玄関先で外気に触れたりプランターの花の水やりなど気分転換を図っています。生活維持のため廊下を歩いたりレクリエーションを行って機能低下予防に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	現在の状況からお金を管理することは難しいが、何かしらの対応はできると思うので努力したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の配慮には常に気を付け対応している。季節感ではその時折で装飾しているが生活感の部分では出来ていない。	暖かい日差しが射し込み窓からは四季を感じられる木々が広がっています。2ユニット共同でダイニングルームを使用し、季節や行事沿った作品が掲示されています。殆どの利用者は、リビングで談笑やゲーム、テレビ観賞にと楽しく過ごされています。温湿度に配慮した生活環境となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り工夫し対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談しながら馴染みの家具や愛用品の持参を進め対応している。	収納し易いクローゼットが配置され、タンスや椅子、テーブル、ベットなどが持ち込まれています。孫や家族の写真などが飾られその人らしく安心して寛げる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等分かるようにプレートを貼ったり、各居室には表札を貼っている。洗面所使用時には椅子を用意したり、床が濡れていないか等、確認している。整理整頓には心がけ、つまずきがないように配慮している。		